

茂木先生

低『七色の花びら』	ワレンチン=ペトロビチ=カタールエフ 作 西郷竹彦 訳 ・ 偕成社
中『はじめてであうすうがくの絵本』	安野光雅 作 ・ 福音館書店
高『アルミちゃん』	北村想 作 ・ 小峰書店
『はじめてであう数学の絵本』・・・3冊セットのとてもきれいな絵本です。絵がとても美しいので、もったいなくて書きこめないけど、書きこんで遊べます。数学の「なかまはずれ」や「じゅんばん」「ふしぎなりのり」「せいくらべ」などなど。色々な見方や考え方があんだね！算数ってクイズみたいだね！と思える本です。きっと算数が大好きになるはず！ぜひ読んでください。	

鈴木文子先生

低『ふたりはいつも』	アーノルド・ローベル 作 三木卓 訳 ・ 文化出版局
中『注文の多い料理店』	宮沢賢治 作 ・ 岩崎書店
高『赤毛のアン』	L.M.モンゴメリ 作 村岡花子 訳 ・ 講談社
『ふたりはいつも』・・・がまくんとかえるくんの会話が楽しい。自分も友だちと話したいなという気持ちになれる本です。	

伊東先生

低『教室はまちがうところだ』	蒔田晋治 作 ・ 子どもの未来社
中『おいしいのぼうけん』	古田足日 作 ・ 童心社
高『星の王子さま』	サン・テグジュペリ 作 河野万里子 訳 ・ 新潮社
『おいしいのぼうけん』・・・「さくら保育園にはかわいいものが2つあります。」とはじまるおいしいのぼうけん。小さいときにおうちの人や幼稚園や保育園の先生に読んでもらったことがあると思います。そんな昔に読んでもらった本を、中学年になって自分で読んでみることも新しい発見があると思います。	

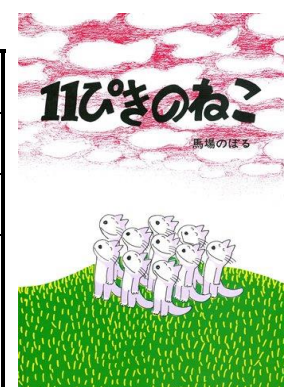
鈴木真歩先生

低『わたしはあかねこ』	サトシン 作 ・ 文溪堂
中『さんねんないきもの事典』シリーズ	今泉忠明 監修 ・ 高橋書店
高『チームふたり』	吉野万理子 作 ・ 学研
『わたしはあかねこ』・・・白ねこと黒ねこの両親から生まれた1匹の赤ねこ。赤ねこは自分の赤色を気に入っているのに、両親、兄弟は赤ねこをかわいそうに思います。自分が自分であることを認められない辛さ、悲しさを抱えながら赤ねこは家を飛び出します。社会の中で自分が自分らしく、他者とともに生きていくことを改めてかんがえさせられる一冊です。	



加藤悦子先生・山野先生

低『11ぴきのねこ』	馬場のぼる 作 ・ こぐま社
中『わすれられないおくりもの』	スーザン・バーレイ 作 小川仁央 訳 ・ 評論社
高『ドリトル先生』シリーズ	ヒュー・ロフティング 作 井伏鱒二 訳 ・ 岩波書店
『ドリトル先生』シリーズ・・・数ある物語のなかでも時代を超えて読み継がれている名作「ドリトル先生」シリーズ。すべての作品に、先生と動物たちの楽しいエピソードがたっぷり詰めこまれていて、読みごたえ十分！！	



川手先生・原田先生

低『はだかの王さま』	アンデルセン 作
中『エルマーのぼうけん』	ルース・S・ガネット 作 前沢明枝 訳 ・ 福音館書店
高『夏の庭』	湯本香樹実 作 ・ 新潮文庫
『夏の庭』・・・小学6年男子三人の忘れられない夏の思い出が書かれている本。近所に住むおじいさんとの交流を通して大切なことを体験したお話です。	

